



[本校]〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1

tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690

[新潟中央キャンパス]〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169

tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117

http://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp

平成25年1月1日 発行



開学20周年迎え記念事業 (3面)

2学部2学科を目指す・学生会館を新設

平山学長新春あいさつ (2面)

「地域から支持される高いレベルの大学に」

光云大学(韓国)と学術交流協定、留学生交換へ (4面)

学内合同企業説明会は2月5、6日に 200社参加予定 (6面)

編集部では読者から表紙を飾る写真を募集しています! 投稿方法は nuischannel@nuis.ac.jp までお問い合わせください。次回のテーマは「春」。

PHOTO:長屋 隆

CONTENTS

(2・3面)

平山学長 新春あいさつ
開学20周年記念事業
11月2日に記念式典学生支援ポータルサイト運用
新潟国際ビジネスメッセに出展
湧源・編集後記に代えて

(4・5面)

慶熙大学留学中の学生を激励
中央キャンパスでAFS全国大会サークル紹介(硬式テニス部)
紅翔祭の来場者が前年の3倍に
平成25年度一般入試概要とポイント

(6・7面)

企業懇談会250社参加し情報交換
卒業生の便り連携講座「戦後思想と日本マンガ」
教員の活動

(8面)

能楽継承で「佐渡夢プロジェクト」
中原邸秋の一般公開で
吹奏楽部・茶道部が活動

開学20年の新年を迎え…新たなスタートを

地域から支持される高いレベルの大学に



学長 平山 征夫

学生諸君、教職員、父母の皆さま明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願います。

昨年の新年は東日本大震災後の新年ということで、「おめでとう」と言うことは控えなくてはならない年明けでした。あれから1年、期待したほどに復興が進んでいないことを考慮しますと、残念ながら事態はあまり変わっていないといわざるを得ません。今年こそ復興が本格化し少しでも良い年になるよう強く願う新年です。

そうした折、本学は今年創立20周年を迎えます。20年前本県の大学進学率改善の期待も担って、「地元の大学」として多くの方々のご支援のもと本学はスタートしました。開学に至るまではもちろ

素晴らしい仲間と刺激的な時間

ん、開学後のご苦労いかばかりだったかと、初代小澤辰男理事長はじめ当時の関係者にあらためて敬意と感謝を申し上げる次第です。

そして20年、期待通り多くの卒業生が地元を中心に活躍をしています。新潟になくはならない大学と評価されていることを喜んでいます。でも人間でいえば二十歳の成人式を迎えたばかりです。もちろん永遠に続いてほしい大学を人間の年齢に例えるのは適当ではないかもしれませんが、逆にいえば長い大学の歴史の中で、たかだかまだ20年の歴史を刻んだだけということです。まだまだ不十分な面もたくさんあると自覚しています。

地域においてまだ伝統の重みは感じるところまでには至っていないですし、OBと大学が一体となった地域貢献もまだ改善の余地があるでしょう。新潟中央キャンパスなどを使った市民との交流も成人向け講座で健闘してはいますが、もともと地域の多くの人々の学びの殿堂となるような余地はあるでしょう。入学者、卒業生の活躍も全県に広がっていません。まして県外での知名度は不十分のまま

魅力ある「学びの殿堂」となろう

です。

20周年を機に学部・学科の見直しや、記念事業が検討・予定されています。記念事業の目玉は「学生会館」の建設です。学生たちがいつも集まり、クラブ活動をはじめ授業以外の活動や、仲間同士での演奏の練習・発表、ゼミの公開討論、親しい友人同士の会話など、幅広く自由に利用されることを願って建設するものです。授業の合間、放課後だけでなく、大学に行って学生会館に行けば、誰か仲間がいて刺激的な時間と空間が得られるという大学生活の中心的な場にしてほしいのです。

今年の新年は、大学が次の20年に向かって新たなスタートを切る年明けでもあります。これからの20年はこれまで以上に厳しく難しいものになるでしょう。座していれば大学が消滅してゆく時代です。より魅力がなければ、地域からも支持されません。学生もただ卒業するというのでは意味がありません。何を学び、人間として何を身につけるかが具体的かつ高いレベルで求められます。それが可能な大学を目指して皆で新しい年をスタートしましょう。

湧源

編集後記に代えて

入試広報委員 内田 亨

どこの大学でも、卒業論文の執筆がある。この卒論を社会で役に立たないと思っている学生や社会人がいるかもしれない。しかし、卒論は社会に出て大きなプロジェクトを任せられ、完遂することに似ている。

まず、テーマ探しである。未知を明らかにすること、常識を疑うことといったテーマ探しは、組織を革新的な方向に導く可能性を秘める。そして、テーマに沿って情報・データ収集、特に現場でのフィールド・リサーチは、実行力と交渉力が必要である。そのため、誠意・情熱・コミュニケーションが必要となる。こうして収集された情報・データの集約検討は、洞察力・分析力を養うことになる。さらに、分析された情報・データを自分の頭で考える考察は、論理的思考力を自然と高める作用がある。

こうして、書き上げられた文章を期限までに「作法」通りの形式で提出することは、組織でいえる「さしずめ」プロジェクト報告書の提出といった感じであろう。

筆者は、今年10人の卒論を見た。当初は形式がなっていない（不作法）、自分オリジナルの主張がない（どこからか借りてきた話の焼き直し）、教員の添削した箇所を直さない（怠慢）、論理の矛盾・飛躍・自己中心的論理的思考力不足とさまざまなパターンであった。卒論執筆には、人間性が出てしまうのである。筆が通って、卒論を通して、その人間性をも育成していくのが大学の大学教育たるゆえんかもしれない。

完成した卒論は、出来不出来が多少あると思うが、学生が誠心誠意込めて書き上げたものである。この卒論執筆こそが、社会に出て活躍する前哨戦であろう。

さらなる進化へ

開学20周年 記念事業

これまで14回の卒業式を経て4,000人以上の卒業生を輩出し、あらゆる場面で活躍されている姿に触れるたびに喜びを感じているところだ。同窓会(みずき会)も新潟本部はもちろんのこと、関東支部もいち早く結成され毎年総会が開かれ、大勢の教

1994年(平成6年4月)に開学した本学も、今年20年目を迎える。今年「国際化」「情報化」に対応できる人材、地域に貢献できる人材の育成を目標に教育・研究に取り組んできました。今日まで定員割れすることもなく、志願者を確保し続けてこられたのは、地域に必要な高等教育機関としての役割に、一定の評価が得られてきたからといえるでしょう。

2学部2学科目指す

学生会館(仮称)を新設

絆を大切に学生を支援

人材育成をより強化へ

職員も参加しており、少しずつですが大学の歴史を重ねつつあります。このように本学はこれまで、建学の精神、教育理念に基づいた教育を続け、時代や地域社会の要請に添えてきました。これからの20年に向けてさらなる進化を続けなければなりません。平成24年度から平成26年

ます。そして、ますます進むグローバル化社会、より深化する情報化時代に向け、教育の質を高め、社会が求める人材の育成をより強化するための改革を検討しています。2つ目は学生会館(仮称)の新設です。いつでも、みんな(一人でも)学習できる。気軽に質問や相談が

市民の皆さまを対象とした記念講演も計画されており。4つ目は記念奨学金等のソフト面の充実を図ります。5つ目は地域貢献のより充実を図った中央キャンパスの利用度をアップするための取り組みを検討しています。

度の3カ年を開学20周年記念年と定め、以下のプログラムを計画しています。1つ目は、学部・学科の見直しです。現在の1学部(情報文化学部)2学科(情報文化学科・情報システム学科)から2学部2学科(国際系学部・同学科、情報系学部・同学科)に再編成し

できる。友達とおしゃべり(飲食)ができる。また文科系クラブの発表や活動場所として等々、「ずっと居たくなる大学」を目指し環境を整えます。3つ目は平成25年11月2日(土)に海外の提携校も招き20周年記念式典や学術シンポジウムを開催します。

業生の皆さん、父母会の皆さんにご報告をいたしますので、さまざまな形で参加していただきたいと願っています。新潟国際情報大学は、これまでの20年を検証し、これからの20年に向けて、絆を大切にしたい学生支援を重点にさらなる発展を目指してまいります。

そのほか語学学習室の整備や食堂の改修等も計画されています。細が、事業の詳細が決まり次第に学生と卒業生の皆さんに

今年11月2日に記念式典

海外の提携校も招き学術シンポジウムを開催

本学では昨年10月1日から、ポータルサイトの運用を開始しました。このサイトはお知らせ等を含む重要な情報を個人ごとに表示し、学生生活を支援するためのウェブサイトにです。

学生支援ポータルサイトを運用

講義関連や個人宛て連絡／履修登録や成績確認も

ポータルサイトで、休講・補講やレポートなどの講義に関連する連絡、個人宛てに送信されたお知らせ、呼び出しを見ることや、ス

各自で転送設定を行うことで、指定したメールアドレスに自分に関連する連絡の状況を送信することもできます。

また、今まで自分の成績は成績通知書で確認していましたが、ポータルサイトからいつでも確認できるようになります。

また、今まで履修登録は、今までの履修登録用紙による登録からウェブ履修登録となりました。これにより、履修登録期

ポータルサイトの運用によって講義関連やお知らせなど、個人ごとに重要な情報へのアクセスが容易になり、学生生活をサポートします。

「新潟国際ビジネスメッセ」に出展

情報システム学科の上西園、中田両研究室

多くの企業担当者が興味を示す

新潟市産業振興センターで10月25、26日に開催された「新潟国際ビジネスメッセ2012」に、本学から情報システム学科の上西園武良研究室と中田豊久研究室の研究成果の展示が行われました。

「新潟国際ビジネスメッセ」は、ビジネスの拡大につながる最新の技術やサービスがさまざまな企業や大学から展示されるBtoBに特化した県下最大級の産業見本市です。

上西園研究室からは、キーボードのタイプミスを分析し、その結

果からより良いキーボードを提案する研究、銀行ATMのユーザインターフェース分析に関する研究が展示されました。また中田研究室からは、電子ブックリーダーのインターフェースに関する研究、顔の位置を用いた集中度の計測に関する研究、機械学習を用いた人のポーズの認識に関する研究の展示をしました。

来場の企業担当者から興味を示していただき、今後につながる貴重なご意見をいただきました。(情報システム学科・講師 中田 豊久)



光云大学(韓国)と学術交流協定



平山征夫学長と申銀珠国際交流委員長が10月8日、韓国ソウル特別市にある光云(クアンウン)大学を訪れ、「学術交流に関する協定書」および「交換学生に関する覚書」の調印を行ってきた。調印式は光云大学の総長室で行われ、金基

光云大学
Kwangwon University

1963年に設置されたソウル特別市に本部を置く私立大学。79年に大学院が設置された。学生数は学部生約7,200人、大学院生は約1,200人。学部は電子情報、工科、自然科学、社会科学、法科、経営、東北亜など7学部。

平山学長と申国際交流委員長は翌10月9日には、学術交流協定締結校のソウル特別市にある慶熙(キョニヒ)大学を訪問しました。

同大学では、金正晩副総長・金重燮国際教育院長と面談し、派遣留学生の状況などについて率直

学長ら慶熙大学を訪問 派遣留学の7人を激励

本学ではこの協定と覚書により、来年度から光云大学からの留学生を受け入れます。また、本学からも光云大学東北アジア大学(学部)に交換留学生を派遣することになっています。



意見交換を行いました。引き続きキャンパスツアーで学内を視察し、同大学に留学中の本学学生を激励しました。

今年度の派遣留学の学生は7名で、国際教育院で二つのクラスに分かれ、いろいろな国からの留学生たちと一緒に元気に楽しく勉学に励んでおり、留学の成果が垣間見えた一日でした。

慶熙大学の教育大学院の院生(外国語としての韓国語教育専攻)権修賢(コンスヒョン)さんが10月22日から11月16日までの間、インターンシップで来学されました。

約1カ月と短期間でしたが、本学の韓国語、韓国関連授業やゼミナール等に参加し、学生たちとともに学び、韓国語授業では、アシスタントを務めたり、新しい教授法を使った模擬授業を行ったりもしました。

権さんは、授業時間以外にも学生たちと活発に交流を行い、本学の学生文化の修得にとって有意義な機会となりました。

佐々木寛(情報文化学科・教授)

「都市を活気づけるためには、多様性と、多様性を受け入れる寛容性が重要」

「グローバルゼミ」とローカリゼーションは同時進行なので、可能性はむしろ地方にある。新潟の10代が海外に出て新しい価値観を身に付け、また新潟に帰ってきて多様性を実現してほしい」などと、新潟の国際交流の可能性について、多角的な議論が交わされました。

新年度から留学生を交換

より、相互の大学の教育研究の向上に努めます。



世界的な留学ボランティア団体AFSの全国大会(にいがた青少年国際交流会議)が11月24日、本学の新潟中央キャンパスで開催され、現在新潟の高校に通う留学生と学校関係者やホストファミリー、さらに一般市民や大学生など約200人が参加しました。このイベントでは、グローバル人材輩出No.1県を目指すというテーマに、5年間で100人のAFS留学生を新潟県から輩出する「N

中央キャンパスでAFS全国大会

IGATA100プロジェクト」を達成するために、さまざまなプログラムで10代の留学の魅力を発信しました。

グローバル人材づくりの意義を発信

本学の国際交流インストラクターも活躍

AFSは世界大戦中に傷病兵の救護輸送に携わったアメリカのボランティア組織「アメリカ野戦奉仕団(American Field Service)」

最も歴史のある留学ボランティア団体となりました。本学との共催となった今回の大会では、まず前半のプログラムで、現在新潟に

の活動が起源です。それはやがて平和のための異文化交流活動へと発展し、現在では世界50カ国以上にネットワークを持つ、世界でも

つ、日本語で発表しました。また、本学で現在「国際交流インストラクター」として活躍する情報文化学科の山田里沙さん、石井郁子

慶熙大の大学院から インターンシップ

さん、今城貴大さんの3人による、参加者全体を巻き込んだ簡単なワークショップが行われました。会場の雰囲気や和ませたアイスブレーキング「後出しじゃんけん」も、新潟と世界とのつながりを再確認する「新潟ワールドクイズ」も、とても好評でした。

また後半のプログラムでは、AFS留学経験者で高校時代に新潟からドイツに留学した大学生や、アメリカ留学から帰国したばかりの現役高校生などがパネルディスカッションを行い、10代で留学を体験する魅力が語られました。

硬式テニス部

大会に向けハードな練習をしながらも楽しく活動する硬式テニス部について前主将の諏訪貴則さん（システム学科3年）に聞きました。

Q・活動状況を教えてください。

1月・水・金曜日に、時間指定は特になく、授業が終わる次第それぞれで部活を始めています。部員は男性6人、女性4人で、全体としての練習は、初心者には先輩が基本から丁寧に教えるなど、皆で一緒に仲良く練習しています。

Q・最近はどうな大会に参加していますか。

新潟市で行われている大会に参加しています。大会自体は強制ではなく参加自由を原則にしているのですが、各自で参加申し込みをします。最近では、胎内市オープンテニスシングルス大会に数人で参加しました。

Q・硬式テニス部を一言で

アピールだ。普段のさい。

仲良く自由に楽しく交流

活動内容は部活というよりサークルに近いような気がします。初心者、経験者ともに仲良く活動しています。興味があればいつでもぜひ一回見学に来てください。

Q・入部のきっかけは

何ですか。

中学、高校とテニスをやっていたので、入学してからすぐテニスコートに見学に行きました。そしたら楽しそうな雰囲気だったので、学生生活で何もしないのはつまらないと思い入部しました。

Q・あなたにとって硬式テニス部とは

友達がたくさんできる、楽しいところです。他の部活の部室も近くにあり、いろいろな交流の機会もあり、さまざまな友好関係が築ける場所です。



新しいものに挑戦して企画 来場者は前年の3倍にも

10月20、21日に行われた第19回紅翔祭（大学祭）。皆さまのおかげで盛大なお祭りとなりました。ありがとうございました！

今回は「新しいものに挑戦してみよう！」をコンセプトにさまざまな新企画を実施してみました。まずはなんと「西区大農業まつり」とのコラボ。メイワサンピアで行っていたのを、本学のみずき野キャンパスにて同日開催でしたが、前年より1千人超の4千人もの方々に来ていただきました。

紅翔祭実行委員長 大沼竜二（情報文化学科2年）

紅翔祭を終えて



また、同窓会（みずき会）による本学初のもちつき大会には子供からお年寄りまでたくさんの方が参加。他にも声優の若本規夫さんによるトークショーや、Spade Aさん、shixaynによるパフォーマンなど、多くの新企画で今までにない盛り上がりを見せました。

毎度おなじみのお笑いライブには東京03さん、文化講演会には元NHKアナの堀尾正明さんをお招きし、多くのお客さまに楽しい時間を過ごしてもらえたと思います。

初日は好天に恵まれ、2日は強風でテントがぶれ復旧作業中には土砂降りに遇うなど大変でした。それでもお客さまが来るころには雨も風もやみ、総来場者数は前年の3倍という大成功を収めました。



◎平成25年度 一般入試概要とポイント

※出願期間内消印有効。

※詳細は「平成25年度学生募集要項」または本学ウェブサイト(<http://www.nuis.ac.jp/>)でご確認ください。

一般入試概要

入試区分	募集人員		出願期間	試験日／試験場		試験実施教科・科目	合格者発表日	入学手続期間
前 期	情報文化学科 35 情報システム学科 65	100	平成25年 1月 7日(月) 1月25日(金)	平成25年 2月2日(土)	新潟 上越 長岡	【国語】 国語総合(現代文)・現代文 【数 学】 数学I・数学II (数学IIは微分・積分を除く) 【外国語】	平成25年 2月8日(金)	平成25年 2月8日(金) 2月19日(火)
後 期	情報文化学科 10 情報システム学科 10	20	平成25年 2月14日(木) 3月 1日(金)	平成25年 3月9日(土)	新潟	英語I・英語II 上記3教科の中から 2教科以上を選択、3教科 受験した場合は高得点の 2教科を合否判定に使用	平成25年 3月12日(火)	平成25年 3月12日(火) 3月21日(木)
大学入試 センター試験 利用	情報文化学科 10 情報システム学科 10	20	平成25年 1月28日(月) 2月13日(火)	平成25年1月 19日(土)、20日(日)の 大学入試 センター試験を 受験していること		各学科の利用教科・科目の 中から2科目選択 3科目以上受験した場合は 高得点の2科目を 合否判定に使用	平成25年 2月22日(金)	平成25年 2月22日(金) 3月5日(火)

入試のポイント

一般入試(前期・後期)で第2志願制を導入!!

この第2志願制を利用すると、第1志望の学科が合格にならなかった場合には第2志望の学科で合否判定を行います。

一般入試(前期)で学費給付奨学生を採用!!

一般入試(前期)の試験結果から、成績上位者に、年間授業料の半額を給付します。奨学金試験を受ける必要も、事前に申請する必要もありません。

給付額	給付対象
年間 授業料の 半額	情報 文化学科 3番以内 情報 システム学科 5番以内



200社参加 本学学生に期待

いよいよ12月1日から3年生を対象にした就職活動がスタートしました。「学内合同企業説明会」が2月5・6日の2日間、本校みぎ野キャンパスにおいて開催されます。厳選採用と学生にとって、厳しい状況は続いていますが、毎年、県内外より200社以上の企業、団体からご参加いただき、本学学生に対して期待度の高いことを示しています。

望まれる活発な人物像、会話力もポイント

これまでの本学の多くの諸先輩たちの「企業人」「社会人」としての実績や頑張りがこの大きな要因であり、社会の中で認められた証でもあります。「質」の高い学生との出会いに期待して、採用担当の方々が県内最大規模である「学内合同企業説明会」に参加くださっております。

また、企業の求めるスキルとして、「コミュニケーション能力」、「積極性」、「チャレンジ精神」と活発な人物像を望んでいます。「会話力」特に会話のキャッチボールが苦手なタイプの学生も年々増加しており、企業の方々と関わりを持つことが大

変重要になっていきます。就職活動を通して、自身を成長させ、明確な方向性に向かって行動できる絶対的チャンスです。就職は「何とかな」は絶対に通用しません。アルバイトとは違います。真剣に将来を考え、積極的に参加し、就活力、人間力をつけることを期待しています。

学内合同企業説明会

2月5日・6日に

企業の方々と本学教職員が情報交換する「企業懇談会」が11月21日、ANAクラウンプラザホテル新潟で開催され、約250の企業・団体から350人の多くの皆さまにご参加いただきました。恒例の講演会には世界初の体脂肪計などの開発に成功し「タニタ社員食堂」で話題の谷田大輔氏をお迎えしました。

250社350人が参加

企業懇談会

まず平山征夫学長があいさつで、本学の就職状況はおおむね好調に推移しているが、それでもなお厳しい状況下で開始される就職活動への理解と協力をお願いしました。12月から3年生の就職活動が開始されるが、政局混迷が就職戦線にマインナスの影響を与えないか心配。大学で学び育成されたそれぞれの才能が活かされる社会を願っている。企業も厳しい現状のなか、能力の高い人を採用することは当然で、そこに挑戦する学生たちも能力を磨いてきたその結果を出し、問題意識を持って行動し、しっかりとした考え

力に身を付けた社会人になることが大事。大学も「質」の高い学生を送り出す努力をしている、などと述べました。そのうえで参加された企業の方々に、就職活動中の4年生および3年生の採用に

情報交換会で卒業生の活躍に高評価



また「体重と寿命」に関しては、食事と運動が生活習慣の両輪であり、目標を持ち楽しむことが寿命を延ばす秘訣とも話されました。タニタを赤字企業から脱却させるため、将来性のない事業から撤退し「はかり」事業に一本化し、社員を元気にするため「世界一」を目標に合理化

谷田氏の講演は「健康」をテーマに体重計とからめた話から始まりました。人類の歴史は飢餓の歴史で、生きながらえる術として体内に

栄養を蓄える遺伝子を持ち、少し食べることに食事をとるまでに脂肪をつけようとする体質になっている。健康に気をつけるうえで自身の責任が半分、遺伝子体質が半分と、新しい悩みの時代に入ってきたとユーモアを交え話されました。

講演会「タニタ」の経営戦略を学ぶ

「タニタ経営マインド」を伝授いただきました。引き続き開かれた懇親会では、関根秀樹理事長が、日ごろの就職活動における協力に対して感謝を述べ、また上西園武良就職指導委員長（情報システム学科教授）が、企業との良好な関係にあらためて感謝しさらなる発展に期待を表明しました。来賓代表として新潟市異業種交流研究会協同組合の南雲俊介理事長から乾杯ご発声をいただき開宴。本学卒業生の近況・仕事ぶりや経済動向など幅広い情報交換をしつつ懇親を深めました。

や販路開拓を進めた「タニタ経営マインド」を伝授いただきました。

3) 委員・講演・その他

伊村 知子(情報システム学科・講師)

- ・(2011年4月～) 日本赤ちゃん学会 編集委員
- ・(2011年7月～) 日本霊長類学会 庶務幹事

内田 亨(情報システム学科・教授)

- ・(2012年11月10日) 起業家協議会賞受賞(情報システム学科4年山倉有馬) NPO法人さいたま起業家協議会主催「第8回懸賞付学生論文発表会」指導教授として感謝状授与される(さいたま市)
- ・(2012年2月～) 地域デザイン学会理事
- ・(2012年10月～2014年9月) 新潟県農業共済組合連合会コンプライアンス委員会委員
- ・(2012年6月24日) 「第4回神奈川ダウン症ネットワーク(KDSN)交流会」(横浜市)

越智 敏夫(情報文化学科・教授)

- ・(2012年9月29日) 「特別編集委員の目」『新潟日報』朝刊
- ・(2012年9月15日) 「日本と新潟のエネルギーについて」日本青年会議所新潟ブロック協議会主催公開討論会(妙高市)
- ・(2012年10月26日) 「地域にとって自治とはなにか」新潟市西区自治協議会講演会(新潟市)

神長 英輔(情報文化学科・准教授)

- ・(2012年11月6日) 「特集 日ロ現場史 第3部 霧の北洋・番外編7」『北海道新聞』夕刊に取材協力(インタビュー)

佐々木 寛(情報文化学科・教授)

- ・(2012年9月24日) 「佐々木社会人ゼミナール(読書会)第100回達成」『新潟日報』朝刊
- ・(2012年10月24日) 「『平和学』の視点から」環日本海懇談会幹事会(新潟市)
- ・(2012年11月5日・26日) 「映画でふりかえる日本の＜戦後＞」本学エクステンションセンター・オープンカレッジ 第1回・第2回(本学新潟中央キャンパス)

- ・(2012年11月10日) 「緑の党(Green Japan)は何を目指すか」緑の党結成報告会司会(新潟市)
- ・(2012年11月14日) 「大学に行こう!——人生を真剣に考える人へ」(新潟県立新潟向陽高等学校)
- ・(2012年11月24日) 「『グローバル人材』について考える」AFS DAY 新潟～にいがた青少年国際交流会議パネリスト(本学新潟中央キャンパス)
- ・(2012年12月7日) 「領土問題を克服する道——私たちにできること」憲憲フォーラムにいがた(新潟市)
- ・(2012年9月1日～4日) 本学学生による福島・宮城支援ボランティア団体「NUI Sプロジェクト」第2回派遣
- ・(2012年9月23日) 佐々木社会人ゼミナール第100回記念研究会(新潟市)

小林 満男(情報システム学科・教授)

- ・(2012年4月～) 財団法人自治体衛星通信機構理事(非常勤)
- ・(2012年11月17日) 経営情報学会2012年秋季全国研究発表大会座長(金沢星稜大学)
- ・(2012年9月5日) 「技術士になるということー物語を紡いで夢を実現しようー」NTTコミュニケーションズ(株)月曜会主催勉強会講師

小宮山 智志(情報システム学科・准教授)

- ・(2012年4月～) 赤塚小学校学校評議員

藤田 晴啓(情報システム学科・教授)

- ・(2012年11月2日) 「朝日新聞」本紙新潟版「能復活 学生が助っ人 全員未経験笛や仕舞特訓」
- ・(2012年10月14日) 第21回地理情報システム学会D7可視化セッションチェア(広島修道大学)
- ・(2012年11月8日) 「低炭素社会のためのデータ駆動型社会システムの開発」研究推進会議議長(ジャカルタ、インドネシア)

卒業生の便り

私はダイダグン(株)東京本社で管理部門に所属し、経理会計(主に予算管理、損益推計、金融機関対応等)の業務を担当しています。

私の会社は全国に本支店、営業所、建設現場をおき、電気、空調、水道衛生工事等建築設備の設計、監理、施工を請け負う総合設備工事会社です。各地に散らばる建設現場を数字の面で支え、まとめあげるのが私の業務といえます。

「経理・会計」というと学生時代に「お金・数字・細かい・暗い…」など

「経理・会計」の面白さを追求

と苦手イメージを持ち、社会人になって仕事とするとはいえないしなかった、絶対にありえない仕事だ、と考えていたことを思い出します。そんな私が入社して7年、経理会計業務の一端を任せられ、それなりに

業務を遂行することができています。性分に合わないと思っていた業務ですが、いまは好きなのです。

私にとって分からないこと・知らないことが多く、追求すればするほど面白みが増していくのが「経理・会計」

全国の建設現場を数字の面で支える

です。学生時代に思いをはせると、在籍していた情報文化学科では1年次からゼミナールが必須で、興味を持つ分野、事柄について調べ、レポートにまとめ発表し、ゼミを進行していくというプログラムがありました。学生時代に培われたことで最も印象的なのは、自分で調べた事柄について理解を深められたことへ喜びを感じたことでした。学生時代に培った経験は、社会人としてさらに成長するうえで基礎となると思います。これからは基本を忘れず、高みを目指して成長していきたいと思っています。

「戦後思想と日本マンガ」

経済・文化状況を反映して
時代と深くつながってきた



一、「巨人の星」が始まった1966年は、学生が古い価値観に異議を唱えた時代。日本の家父長的メンタリティーが描かれるが、古いものに反発したはずの学生が熱狂的に読んでいた。一見矛盾するようだが、学生たちは実は通俗的なマンガを「くだらない」とする既成の価値観に反逆していた。

一、原爆を正面から取り上げた「はだしのゲン」は、長い間、間違った評価が伝えられた不幸な作品。被ばくした青年の心の底にある心境を描いたところが、この作品のすごいところで、日本のマンガは、戦争体験や被ばく体験を描くところまで来た。マンガは戦後思想と文化を反映し、時代と深くつながっている。

評論家・呉智英氏を迎えて

本学と新潟日報の連携講座

本学と新潟日報社との連携による文化講演会が10日、新潟中央キャンパスで開かれ、評論家・日本マンガ学会会長の呉智英氏が「戦後思想と日本マンガ」と題して講演しました。呉さんは「日本マンガは『MANGA』として世界に通用するまでになった。このマンガと日本の戦後思想・文化状況がどう関係しているのか考えてみたい」と次のように語りました(要旨)。

「戦後のマスコミの発達で、森の王者ライオンの3世代の物語を通して、日本人の近代化が持つ矛盾が描かれる。近代化と文明化が西洋化と1本の縄のようによじれてしまった戦後日本の葛藤…戦後の良心的な思想を

教員の活動(本人申告による)

1) 研究論文・図書

伊村 知子(情報システム学科・講師)

・(in press) "Perception of the motion trajectory of objects from moving cast shadows in infant Japanese macaques (Macaca fuscata)", Developmental Science

越智 敏夫(情報文化学科・教授)

・(2012年10月)「ナショナリズムと自己批判性」『立教法学』86号(45-63頁)

上西園 武良(情報システム学科・教授)

・(2012年) "Preliminary Research to Decrease Splashing Mud During Walking", PROCEEDINGS of the HUMAN FACTORS and ERGONOMICS SOCIETY 56th ANNUAL MEETING (1922-1926頁)

白井 健二(情報システム学科・教授)

・(2012年) "Preliminary Research to Decrease Splashing Mud During Walking", PROCEEDINGS of the HUMAN FACTORS and ERGONOMICS SOCIETY 56th ANNUAL MEETING (1922-1926頁)

2) 学会・研究会報告

伊村 知子(情報システム学科・講師)

・(2012年11月4日)「乳児期におけるスリット視条件下での大域的形態知覚の再検討」日本基礎心理学会第31回大会(九州大学)

・(2012年11月4日)白井述他「移動行動の発達で乳児の視運動知覚に及ぼす影響」日本基礎心理学会第31回大会(九州大学)

白井 陽一郎(情報文化学科・教授)

・(2012年9月29日)「EU政治理論の再検討—マルチレベリ・ガバナンスの規範パワー?」第60回慶應EU研究会(慶應義塾大学)

・(2012年11月30日)「EUの環境ガバナンスと政治の視点」第18回EPM勉強会(総合地球環境学研究所)

区 建英(情報文化学科・教授)

・(2012年9月21~22日)「戦後の思想における個人自由と公共性」中国近現代社会文化史国際学術研究会(北京、中国)

・(2012年11月22~23日)「『Nation概念と東亜のNation State』報告に対する評論」東亜諸国のナショナリズム—歴史と現状(台北、台湾)

神長 英輔(情報文化学科・准教授)

・(2012年10月17日)「19世紀後半におけるコンプ貿易 サハリン島と中華世界」(ロシア語)国際学術会議(サハリン州政府・サハリン国立大学共催)、「サハリン州 過去・現在・未来」(サハリン国立大学、ユジノサハリンスク市、ロシア連邦)

上西園 武良(情報システム学科・教授)

・(2012年10月14日)「絵図を基にした弥彦〜新潟間のまちあるきマップの作成について」第21回地理情報システム学会学術研究発表大会論文集 D7-5 CD-ROM(広島修道大学)

・(2012年10月27日)三浦健太郎他「階段下降時における落下恐怖感の低減に関する研究」日本人間工学会東海支部2012年研究大会論文集(84-85頁)(名古屋)

佐々木 桐子(情報システム学科・准教授)

・(2012年12月1日)「IPv6対応状況の目撃比較」情報システム学会(文教大学)

藤田 晴啓(情報システム学科・教授)

・(2012年10月14日)「絵図を基にした弥彦〜新潟間のまちあるきマップの作成について」第21回地理情報システム学会学術研究発表大会論文集 D7-5 CD-ROM(広島修道大学)

・(2012年10月14日)森 洋久他「井上門内歴史旅行データベース」第21回地理情報システム学会学術研究発表大会論文集 D7-2 CD-ROM(広島修道大学)

「能楽継承と能舞台の活用で地域活性化」

「佐渡夢プロジェクト」で優秀賞

本学と新大
共同提案

佐渡市が地域経済活性化のための、大学（教員および学生）からの提案による、夢のある事業「大学発佐渡夢プロジェクト」を全国から公募していた。平成24年8月の最終審査で6大学提案が残った。さらに本学と新潟大学の共同提案「羽茂小泊集落の能楽継承と能舞台活用による地域活性化事業」が優秀賞に選ばれた。この提案をベースに平成24年度から3年間、小泊集落の「佐渡市地域活性化チャレンジ事業」および本学の「地域貢献事業」をマッチングさせた事業計画が進められている。

この提案の概要は、羽茂小泊活性化友の会と大学が連携し、能楽の活性化と能舞台の有効活用を実施し、能合宿を計画している全国の大学とも連携して、観光・交流人口増加と地域活性化を図るものです。佐渡島内には多くの老朽化した能舞台

能ボランティアとして稽古 地元と交流



があり、市では地域の能文化を守るため修復を進めています。この能舞台を広く利用してもらおうとPRに努め、既に首都圏の大学サークルなどが、能舞台の視察や薪能の見学などに訪れています。

本学および新潟大学の学生と教職員は、サークル活動の一環として年間5回羽茂小泊にて合宿を行い、能ボランティアとして地元の能楽愛好会との合同練習を行うなどし

新潟でもワークショップ 謡・仕舞特別講座も

て、地元の受け入れ側集落との交流を重ねています。毎年最終回には地元村社大祭での能奉納のお手伝いをします。また、佐渡市・新潟市にてワークショップを行い、小中高校での能楽紹介も行います。

さらに両大学キャンパスにて、現行の笛・仕舞・謡の練習を続けるとともに、平成25年度からは能楽師による囃子（笛、小鼓、大鼓、太鼓）の稽古を本学新潟中央キャンパスにて行う予定です。

交流人口増加による佐渡活性化に貢献しつつ、佐渡の能舞台にて発表することを最終目標としています。また新潟市民向けのオープンカレッジ事業、佐渡出身シテ方能楽師による「佐渡夢プロジェクト」も計画しています。

情報システム学科・
教授 藤田晴啓
(笛一噌流)



「中原邸」で憩いの時を提供

本学近隣の史跡、赤塚の「中原邸」秋の一般公開（10月8日）に、茶道部と吹奏楽部が今年度も参加しました。豪農の館「中原邸」は現存する貴重な明治天皇北陸巡幸在所で、訪れた多くの観光客に憩いのひと時を楽しんでいただきました。



表千家茶道部

休む間もなく

お茶を点て続け

吹奏楽部
木々に囲まれ演奏
聴く側と一体感

一般公開での演奏は3回目ですが、今回は久しぶりに部員だけの演奏となりました。

8人という小編成での演奏は、楽譜の改変などで、どうしても不自然な箇所が発生します。日常の練習をしつかりと行い聴き応えのある音楽をつくれるよう試行錯誤し、本番を迎えました。

当日は午前と午後の2回演奏。木々に囲まれた広い空間での演奏は、ホールなどとは違い、聴く側との一体感が強く感じられました。

吹奏楽部前学生代表
小林貢一

(情報文化学科3年)

邸内の会場の関係で、直接お客さまの前でお点前をすることはできませんでしたが、精いっぱいおいしいお茶とお菓子を楽しんでいただきました。

当日は天候に恵まれて、これほど見学者が多い日はこれまでなかったと思います。

邸内では、竹林から作った竹炭や佐渡など地元の土産なども販売され、とてもにぎやかな雰囲気でした。10時から16時までの公開の間、見学者が途切れることはほとんどなく、私たちも休むことなくお茶を点て続けていました。最終的には100人近くのお客さまにお越しいただきました。大変でしたがとても充実した一日でした。

表千家茶道部学生代表
川崎祐一郎

(情報システム学科3年)